

令和3年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料



活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	✓
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：徳之島世界自然遺産保全・活用検討協議会

活動地域：鹿児島県 徳之島（世界自然遺産登録地）

活動におけるテーマ・キャッチコピー

自然と文化に向き合い、

人生を豊かにする時間に出会える島

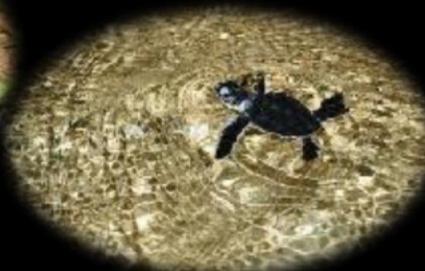
活動団体紹介の前に活動地域のご紹介

奄美大島、**徳之島**、

沖縄島北部及び西表島

令和3年7月26日

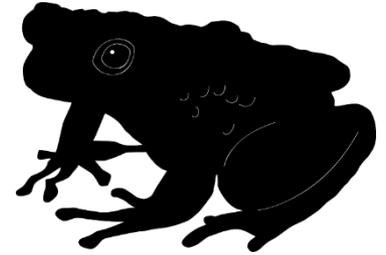
世界自然遺産に登録



活動団体紹介・目指す地域の姿

徳之島について

- 鹿児島県・沖縄県の間にある離島 航空直行便は飛んでいない。
- 年間入込客 約12万人
- 主な産業 農業・畜産業



世界自然遺産登録

- 世界自然遺産登録に向けて、外来種問題や希少種の盗掘・盗採等に取り組む。
- 一方で、地域住民の多くは世界自然遺産に関心がなかったのが事実。
- 行政と民間の間での温度差もある中、世界自然遺産登録を迎えた。
- **自然や文化、島の魅力を紹介する仕組みが十分に整っていなかった。**

目指す地域の姿

- 観光地をふらっと立ち寄るだけの観光だけじゃもったいない。
- 島口、島唄、人との関わり合いを通じてこの島の空気感を感じていただきたい。
- 島を体験できるコンテンツの整備、ガイドという職業を確立したい。



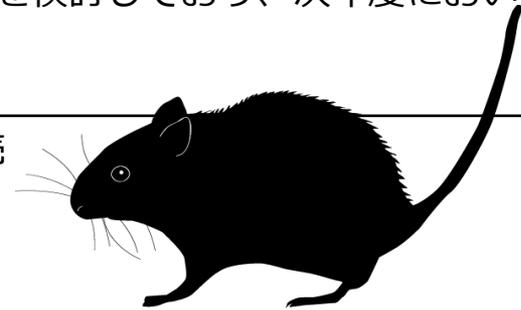
**島に暮らす人、島を訪れる人が
自然と文化に向き合い、人生を豊かにする時間に出会える島でありたい**

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと①

事業名称	世界自然遺産“徳之島”島まるごと体感ツーリズム事業
事業の あらすじ・ ストーリー	<p>地域の様々な団体が集い、観光事業者と漁業・農業といった多様な関係者が連携し、地域に残る縦割りを打破し、観光受け入れ体制の構築を図る。</p> <p>テーマに「自然と文化に向き合い、人生を豊かにする上質な時間を過ごす旅の提供」を掲げ、地域に色濃く残る自然や文化などのツールを活かし、富裕層・長期滞在者をターゲットに体験型ツアーの造成・提供を行い、リピーターやファンを生み出し、世界自然遺産登録を契機とした地域循環共生圏の確立を図る。</p>
今年度の 取組	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○観光コンテンツ造成研修会の開催 新規観光コンテンツの造成に取り組む団体のスタートアップを図るため、新規団体や地元ガイドを対象とした研修会の実施。 ○観光コンテンツ開発・拡充支援 観光コンテンツの開発・拡充に取り組む個人・団体に対して、観光コンテンツの紹介用映像の制作支援、観光客の受入体制の支援
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ○専門家との定期的なミーティング ○新規観光体験を10コンテンツ創出 (E-Bikeを使ったガイドと巡る名所、島内産コーヒーの植付・焙煎・試飲、枯損木を使ったウッドワーククラフト、ナイトハイク、集落歩き&ふり茶体験 他) ○上記コンテンツを紹介する映像制作

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと②

事業名称	世界自然遺産“徳之島”ブランド創造事業
事業の あらずじ・ ストーリー	<p>アマミノクロウサギが訪れる農園で育った作物ブランド化事業では、世界中でもこの地域にしか生息していないアマミノクロウサギとの共生を目指す農園で採れる作物について、環境配慮した農作物として紹介することで、一般的に販売されている作物との差別化を図る。</p> <p>日本国内には世界自然遺産地域が5ヶ所あるが、主幹産業を農業とし、多種多様な作物を生産する地域は徳之島のみ。世界自然遺産を目的として訪れた方に、島の農家・農作物とのふれあう機会を創出することで、農家の所得を向上し、世界自然遺産登録による経済効果を農業分野等にも展開する。</p>
今年度の 取組	<p>○ふるさと納税サイトを活用した顧客の獲得 行政が取り組むクラウドファンディング、ガバメントクラウドファンディングを活用してアマミノクロウサギとの共生を目指す農家の作物を販売。一般市場価格より1.5倍の値段で販売を行う。</p> <p>○農政担当者との島の将来像の共有 自然環境の保全・活用において、これまで異なる立場であった世界自然遺産担当・農政担当者との会合を行い、今後の島の将来像を語り合う。 農業体験・農泊体験など、新たな資金の獲得手段を検討しており、次年度において受け入れマニュアルの作成・モニターツアーの開催を予定</p>
進捗状況	<p>○ふるさと納税サイトにおける共生を目指した農作物の販売 ○次年度以降における具体的なスケジュール作成 ○モデル農家の選定</p>



今年度の取組を通じて得た気づきや課題

ガイド業

- 元々体験コンテンツが僅かだった徳之島において、10のコンテンツが誕生。
- 昼、夜の体験が充実することで観光客の滞在時間を延ばすことが可能に。
- ただし、循環という部分では、経済・自然の2つがメインか。
- 社会の面を強化するには、ガイド業の地位の確立、地域貢献度の可視化が必要。
- ガイドの社会的地位が確立されることで、将来の担い手（UIターン）の増加に繋がる。
→社会の循環



農業

- 世界自然遺産登録後、一定の農家が世界自然遺産のネーミングを活用した販促活動
- 少しずつではあるが、世界自然遺産に興味を持つ農家が増加
- 赤土流出防止や低農薬など自然に配慮した農法が浸透しつつある。
- 環境配慮した農家に体験農業の機会を設けることで、新たな収入・意識の醸成
→農業分野においても、経済・社会・自然の循環が生まれるのでは。

今後の展望

- コロナ禍の影響もあり、新たに生まれた10コンテンツを多くの人に提供できていない。
→モニターツアー含めコンテンツのブラッシュアップを予定。
→宿泊事業者や交通事業者（レンタカー事業者等）との連携
- 農業体験・農泊の受入（第一歩）
→行政・農家向けの研修会の開催
→目指すべき地域像の共有
- 農業体験・農泊の受入体制の強化
→農家（ホスト）・エコツアーガイド（コーディネーター）のマッチング
- 自然と文化に向き合い、人生を豊かにする時間に出会える島について（2023年版）を関係機関との意識の共有

